

34 広島県

国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(基礎資料)

都道府県番号	整理番号	市町村	国保料率等										長寿医療料率		その他	
			賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割(%)	均等割額(円)	国保被保険者数(人)	国保持会への法定外一般会計繰入(千円)
					所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
34	1	広島市	3方式	市民税所得割額	221.00%	32,040	13,238		50%	40%	10%	—	7.14%	40,467	286,465	5,855,207
34	2	呉市	3方式	旧ただし書き	8.90%	24,000	22,800		52%	30%	18%	—	7.14%	40,467	65,434	0
34	3	竹原市	4方式	旧ただし書き	7.20%	27,400	20,200	18,973	44%	34%	15%	7%	7.14%	40,467	9,024	0
34	4	三原市	4方式	旧ただし書き	7.90%	27,000	27,000	4,690	47%	31%	19%	3%	7.14%	40,467	27,152	0
34	5	尾道市	4方式	旧ただし書き	8.10%	24,900	25,200	8,106	45%	31%	19%	5%	7.14%	40,467	44,683	70,417
34	6	福山市	3方式	旧ただし書き	8.40%	26,100	20,700		51%	33%	15%	—	7.14%	40,467	118,370	89,608
34	7	府中市	4方式	旧ただし書き	6.30%	24,000	19,800	9,100	41%	34%	17%	8%	7.14%	40,467	12,021	0
34	8	三次市	4方式	旧ただし書き	8.50%	24,500	20,500	18,973	48%	31%	15%	6%	7.14%	40,467	17,645	4,338
34	9	庄原市	4方式	旧ただし書き	6.20%	22,200	22,200	13,026	38%	33%	18%	11%	7.14%	40,467	13,372	8,534
34	10	大竹市	4方式	旧ただし書き	7.74%	25,320	27,650	6,911	45%	30%	20%	5%	7.14%	40,467	8,593	0
34	11	東広島市	3方式	旧ただし書き	7.30%	28,000	25,100		48%	35%	17%	—	7.14%	40,467	36,919	10,029
34	12	廿日市市	4方式	旧ただし書き	5.60%	28,000	24,000	8,771	47%	32%	15%	6%	7.14%	40,467	30,335	127,161
34	13	安芸高田市	4方式	旧ただし書き	6.40%	22,800	20,100	13,193	42%	32%	16%	10%	7.14%	40,467	10,040	0
34	14	江田島市	4方式	旧ただし書き	6.70%	26,000	23,000	11,173	45%	31%	16%	8%	7.14%	40,467	10,692	0
34	15	府中町	4方式	旧ただし書き	6.50%	30,000	28,000	11,933	47%	30%	16%	7%	7.14%	40,467	12,104	24,761
34	16	海田町	4方式	旧ただし書き	6.40%	28,800	28,800	14,278	47%	8%	28%	17%	7.14%	40,467	6,502	46,798
34	17	熊野町	4方式	旧ただし書き	6.40%	28,400	25,700	28,530	47%	31%	15%	8%	7.14%	40,467	6,101	114,112
34	18	坂町	4方式	本文方式	13.00%	21,000	22,000	18,240	48%	24%	15%	13%	7.14%	40,467	3,837	1,696
34	19	安芸太田町	4方式	旧ただし書き	7.50%	27,000	21,000	20,536	39%	34%	16%	11%	7.14%	40,467	3,152	0
34	20	北広島町	4方式	旧ただし書き	6.65%	24,000	25,000	13,917	39%	33%	20%	8%	7.14%	40,467	6,662	0
34	21	大崎上島町	4方式	旧ただし書き	5.60%	23,900	23,000	18,973	40%	35%	15%	10%	7.14%	40,467	3,486	100
34	22	世羅町	4方式	旧ただし書き	7.00%	24,000	18,000	14,462	39%	34%	15%	12%	7.14%	40,467	5,799	0
34	23	神石高原町	4方式	旧ただし書き	7.00%	20,000	20,000	12,470	37%	11%	35%	17%	6.42%	36,372	4,338	18,720

(様式3)

国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(75歳以上単身世帯)

(単位:円)

都道府県 番号	整理 番号	市町村	単身世帯(75歳以上)					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料
34	1	広島市	13,600	12,100	76,400	66,600	315,300	204,300
34	2	呉市	14,040	12,100	80,200	66,600	251,100	204,300
34	3	竹原市	33,300	12,100	91,600	66,600	231,800	204,300
34	4	三原市	20,900	12,100	85,800	66,600	240,000	204,300
34	5	尾道市	23,100	12,100	87,100	66,600	244,100	204,300
34	6	福山市	14,000	12,100	77,800	66,600	239,600	204,300
34	7	府中市	22,200	12,100	74,400	66,600	197,500	204,300
34	8	三次市	32,500	12,100	95,800	66,600	259,000	204,300
34	9	庄原市	26,300	12,100	78,300	66,600	199,700	204,300
34	10	大竹市	22,800	12,100	86,400	66,600	237,500	204,300
34	11	東広島市	15,900	12,100	77,500	66,600	220,600	204,300
34	12	廿日市市	24,400	12,100	77,300	66,600	189,300	204,300
34	13	安芸高田市	26,100	12,100	78,200	66,600	203,000	204,300
34	14	江田島市	25,900	12,100	82,500	66,600	213,900	204,300
34	15	府中町	29,300	12,100	89,500	66,600	219,100	204,300
34	16	海田町	31,600	12,100	91,100	66,600	218,800	204,300
34	17	熊野町	44,800	12,100	102,500	66,600	229,500	204,300
34	18	坂町	31,100	12,100	115,000	66,600	359,600	204,300
34	19	安芸太田町	34,900	12,100	94,900	66,600	240,700	204,300
34	20	北広島町	28,600	12,100	85,000	66,600	215,500	204,300
34	21	大崎上島町	33,000	12,100	83,400	66,600	194,400	204,300
34	22	世羅町	27,100	12,100	81,700	66,600	217,100	204,300
34	23	神石高原町	24,500	10,900	78,100	59,900	213,100	183,700

(様式4)

国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(夫婦世帯:ともに75歳以上)

(単位:円)

都道府県番号	整理番号	市町村	夫婦世帯(ともに75歳以上)					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料	国保保険料	長寿医療保険料
34	1	広島市	23,200	24,200	66,300	99,000	290,400	244,800
34	2	呉市	21,200	24,200	99,400	99,000	275,000	244,800
34	3	竹原市	41,500	24,200	113,500	99,000	259,200	244,800
34	4	三原市	29,000	24,200	107,400	99,000	267,000	244,800
34	5	尾道市	30,600	24,200	107,000	99,000	269,000	244,800
34	6	福山市	21,900	24,200	98,600	99,000	265,700	244,800
34	7	府中市	29,400	24,200	93,600	99,000	221,500	244,800
34	8	三次市	39,800	24,200	115,400	99,000	283,500	244,800
34	9	庄原市	33,000	24,200	96,100	99,000	221,900	244,800
34	10	大竹市	30,400	24,200	106,700	99,000	262,800	244,800
34	11	東広島市	24,300	24,200	99,900	99,000	248,600	244,800
34	12	廿日市市	32,800	24,200	99,700	99,000	217,300	244,800
34	13	安芸高田市	32,900	24,200	96,500	99,000	225,800	244,800
34	14	江田島市	33,700	24,200	103,300	99,000	240,000	244,800
34	15	府中町	38,300	24,200	113,500	99,000	249,100	244,800
34	16	海田町	40,200	24,200	114,100	99,000	247,600	244,800
34	17	熊野町	53,300	24,200	125,300	99,000	257,900	244,800
34	18	坂町	37,400	24,200	82,400	99,000	331,200	244,800
34	19	安芸太田町	43,000	24,200	116,500	99,000	267,700	244,800
34	20	北広島町	35,800	24,200	104,200	99,000	239,500	244,800
34	21	大崎上島町	40,200	24,200	102,500	99,000	218,300	244,800
34	22	世羅町	34,300	24,200	100,900	99,000	241,100	244,800
34	23	神石高原町	30,500	21,800	94,100	89,000	233,100	220,100

(様式5)

国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(夫婦世帯:夫75歳以上、妻75歳未満)

(単位:円)

都道府県番号	整理番号	市町村	夫婦世帯(夫75歳以上、妻75歳未満)					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後	国保	長寿医療制度移行後
			国保保険料	長寿十国保	国保保険料	長寿十国保	国保保険料	長寿十国保
34	1	広島市	23,200	23,700	66,300	97,500	290,400	243,000
34	2	呉市	21,200	22,700	99,400	94,900	275,100	239,700
34	3	竹原市	41,500	23,400	113,500	96,600	259,200	241,800
34	4	三原市	29,000	24,300	107,400	99,000	267,000	244,800
34	5	尾道市	30,600	23,400	107,000	96,600	269,000	241,800
34	6	福山市	21,900	23,000	98,600	95,800	265,700	240,800
34	7	府中市	29,400	22,300	93,600	93,700	221,500	238,200
34	8	三次市	39,800	22,500	115,400	94,400	283,500	239,100
34	9	庄原市	33,000	22,100	96,100	93,200	221,900	237,600
34	10	大竹市	30,400	23,800	106,700	97,900	262,800	243,400
34	11	東広島市	24,300	24,300	99,900	99,000	248,600	244,900
34	12	廿日市市	32,800	24,100	99,700	98,600	217,300	244,300
34	13	安芸高田市	32,900	22,000	96,500	92,900	225,800	237,200
34	14	江田島市	33,700	23,400	103,300	96,600	240,000	241,800
34	15	府中町	38,300	25,300	113,500	101,800	249,100	248,300
34	16	海田町	40,200	25,100	114,100	101,200	247,600	247,500
34	17	熊野町	53,300	24,500	125,300	99,600	257,900	245,600
34	18	坂町	37,400	21,700	82,400	92,200	331,200	236,300
34	19	安芸太田町	43,000	23,400	116,500	96,600	267,700	241,800
34	20	北広島町	35,800	23,100	104,200	95,800	239,500	240,800
34	21	大崎上島町	40,200	22,700	102,500	94,900	218,300	239,700
34	22	世羅町	34,300	22,000	100,900	93,000	241,100	237,300
34	23	神石高原町	30,500	19,900	94,100	83,900	233,100	213,700

(様式6)

国民健康保険料・長寿医療制度保険料比較(同居世帯(75歳以上高齢者＋子供夫婦))

(単位:円)

都道府県番号	整理番号	市町村	同居世帯					
			年金79万		年金201万		年金400万	
			国保 国保保険料	長寿医療制度移行後 長寿＋国保	国保 国保保険料	長寿医療制度移行後 長寿＋国保	国保 国保保険料	長寿医療制度移行後 長寿＋国保
34	1	広島市	243,900	254,400	284,200	286,600	514,000	416,200
34	2	呉市	225,600	242,100	268,400	276,300	429,900	405,900
34	3	竹原市	227,200	221,300	261,800	255,500	392,400	385,100
34	4	三原市	228,800	237,600	266,700	271,800	410,100	401,400
34	5	尾道市	227,100	234,600	266,000	268,800	413,000	398,400
34	6	福山市	222,500	236,900	262,800	271,100	415,300	400,700
34	7	府中市	193,500	200,900	223,800	235,100	338,100	364,700
34	8	三次市	238,000	235,000	278,700	269,200	433,000	398,800
34	9	庄原市	193,000	198,200	222,700	232,400	335,300	362,000
34	10	大竹市	224,300	232,600	261,500	266,800	401,900	396,400
34	11	東広島市	216,400	228,900	251,500	263,100	383,900	392,700
34	12	廿日市市	199,100	202,800	226,000	237,000	327,600	366,600
34	13	安芸高田市	195,800	200,300	226,500	234,500	342,700	364,100
34	14	江田島市	210,700	214,000	242,800	248,200	364,400	377,800
34	15	府中町	225,500	224,100	256,700	258,300	374,700	387,900
34	16	海田町	223,600	221,000	254,300	255,200	370,400	384,800
34	17	熊野町	233,500	217,100	264,200	251,300	380,400	380,900
34	18	坂町	244,900	246,200	307,300	280,400	543,300	410,000
34	19	安芸太田町	232,800	225,700	268,800	259,900	404,900	389,500
34	20	北広島町	208,700	211,300	240,600	245,500	361,300	375,100
34	21	大崎上島町	196,000	193,600	222,900	227,800	324,500	357,400
34	22	世羅町	207,400	209,400	241,000	243,600	368,000	373,200
34	23	神石高原町	195,400	199,300	229,000	230,100	356,000	346,600

(広島)市 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
1	3方式	市民税所得割額	221%	32,040	13,238	—	50%	40%	10%	—	7.14	40,467	286,465	5,855,207

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	13,600	7割	—	12,100		
	年金201万	2割	—	76,400	2割	—	66,600		
	年金400万	—	—	315,300	—	—	204,300		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	23,200	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割	12,100 12,100	24,200	
	夫:年金201万	2割	—	66,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割	66,600 32,400	99,000	
	夫:年金400万	—	—	290,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	—	204,300 40,500	244,800	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	23,200	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割	12,100 11,600	23,700	
	夫:年金201万	2割	—	66,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割	66,600 30,900	97,500	
	夫:年金400万	—	—	290,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	—	204,300 38,700	243,000	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	243,900	長寿保険料 国保保険料	—	40,500 211,900	254,400	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	284,200	長寿保険料 国保保険料	—	74,700 211,900	286,600	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	514,000	長寿保険料 国保保険料	—	204,300 211,900	416,200	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特金への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

根拠

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保持会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
2	3方式	旧ただし書	8.90%	24000	22800	-	52%	30%	18%	-	7.14	40467	65434	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7	-	14,040	7割	-	12,100	
	年金201万	2	-	80,200	2割	-	66,600	
	年金400万	-	-	251,100	-	-	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7	-	21,200	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2	-	99,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	-	-	275,000	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	- -	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7	-	21,200	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 10,600	22,700
	夫:年金201万	2	-	99,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 28,300	94,900
	夫:年金400万	-	-	275,000	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	- -	204,300 35,400	239,700
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	-	-	225,600	長寿保険料 国保保険料	- -	40,500 201,600	242,100
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	-	-	268,400	長寿保険料 国保保険料	- -	74,700 201,600	276,300
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	-	-	429,900	長寿保険料 国保保険料	- -	204,300 201,600	405,900

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村住民税所得割額」、「市町村住民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保持会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「-」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「-」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)+配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万円以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
3	4方式	旧ただし書	7.20%	27400	20200	18973	44.00%	34.00%	15.00%	7.00%	7.14	40467	9024	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	33,300		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	91,600		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	231,800		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	41,500	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	24,200
					妻の長寿保険料	7割	—	12,100	
	夫:年金201万	2割	—	113,500	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	99,000
					妻の長寿保険料	2割	—	32,400	
	夫:年金400万	—	—	259,200	夫の長寿保険料	—	—	204,300	244,800
					妻の長寿保険料	—	—	40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	41,500	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	23,400
					妻の国保保険料	7割	—	11,300	
	夫:年金201万	2割	—	113,500	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	96,600
					妻の国保保険料	2割	—	30,000	
	夫:年金400万	—	—	259,200	夫の長寿保険料	—	—	204,300	241,800
					妻の国保保険料	—	—	37,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人 (75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	227,200	長寿保険料	—	—	40,500	221,300
					国保保険料	—	—	180,800	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	261,800	長寿保険料	—	—	74,700	255,500
					国保保険料	—	—	180,800	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	392,400	長寿保険料	—	—	204,300	385,100
					国保保険料	—	—	180,800	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万円以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しない場合として計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しない場合として計算すること。

(三原市) 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
4	4方式	旧ただし書	7.90%	27,000	27,000	4,690	47%	31%	19%	3%	7.14	40467	27,152	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	20,900	7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	85,800	2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	240,000	—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	29,000	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	107,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	267,000	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	29,000	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 12,200	24,300
	夫:年金201万	2割	—	107,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	267,000	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 40,500	244,800
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	228,800	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 197,100	237,600
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	266,700	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 197,100	271,800
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	410,100	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 197,100	401,400

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
5	4方式	旧ただし書	8.10%	24900	25200	8106	45.00%	31.00%	19.00%	5.00%	7.14	40467	44683	70417

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	23,100	7割	—	12,100		
	年金201万	2割	—	87,100	2割	—	66,600		
	年金400万	—	—	244,100	—	—	204,300		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	30,600	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200	
		2割	—	107,000	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000	
	夫:年金400万	—	—	269,000	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	30,600	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 11,300	23,400	
		2割	—	107,000	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 30,000	96,600	
	夫:年金400万	—	—	269,000	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 37,500	241,800	
同居世帯 (計3人:高齢者1人 (75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	227,100	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 194,100	234,600	
		—	—	266,000	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 194,100	268,800	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	413,000	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 194,100	398,400	

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

(福山)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割合(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割合	均等割額	平等割額	資産割額	所得割合	均等割合	平等割合	資産割合				
6	3方式	旧ただし書	8.40	26100	20700	-	51.46	33.23	15.31	-	7.14	40467	118370	89608

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	14,000		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	77,800		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	239,600		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	21,900		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	
	夫:年金201万	2割	—	98,600		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	
	夫:年金400万	—	—	265,700		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	21,900		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 10,900	
	夫:年金201万	2割	—	98,600		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 29,200	
	夫:年金400万	—	—	265,700		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 36,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	222,500		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 196,400	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	262,800		長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 196,400	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	415,300		長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 196,400	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「6割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化したとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化したとして計算すること。

(府中市)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保持会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
7	4方式	旧ただし書	6.30%	24000	19800	9100	41.00%	34.00%	17.00%	8.00%	7.14	40467	12021	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	22,200		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	74,400		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	197,500		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	29,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	— —	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	93,600	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	— —	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	221,500	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	— —	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	29,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	— —	12,100 10,200	22,300
	夫:年金201万	2割	—	93,600	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	— —	66,600 27,100	93,700
	夫:年金400万	—	—	221,500	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	— —	204,300 33,900	238,200
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	193,500	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	40,500 160,400	200,900
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	223,800	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	74,700 160,400	235,100
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	338,100	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	204,300 160,400	364,700

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保持会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)+配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

(三次市) 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割額	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
8	4方式	旧ただし書	8.50%	24,500円	20,500円	18,973円	48.40%	30.50%	14.77%	6.33%	7.14	40467	17645	4338

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	32,500		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	95,800		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	259,000		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	39,800		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	
	夫:年金201万	2割	—	115,400		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	
	夫:年金400万	—	—	283,500		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	39,800		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 10,400	
	夫:年金201万	2割	—	115,400		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 27,800	
	夫:年金400万	—	—	283,500		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 34,800	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	238,000		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 194,500	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	278,700		長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 194,500	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	433,000		長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 194,500	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

(庄原)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特余への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
9	4方式	旧ただし書	6.20%	22200	22200	13026	38.00%	33.00%	18.00%	11.00%	7.14	40467	13372	8534

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	26,300		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	78,300		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	199,700		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	33,000		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	
	夫:年金201万	2割	—	96,100		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	
	夫:年金400万	—	—	221,900		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	33,000		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 10,000	
	夫:年金201万	2割	—	96,100		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 26,600	
	夫:年金400万	—	—	221,900		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 33,300	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	193,000		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 157,700	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	222,700		長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 157,700	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	335,300		長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 157,700	

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特余への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
10	4方式	旧ただし書	7.74%	25,320円	27,650円	6,911円	45%	30%	20%	5%	7.14	40467	8,593	

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	22,800		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	86,400		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	237,500		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	30,400	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	— —	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	106,700	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	— —	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	262,800	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	— —	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	30,400	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	— —	12,100 11,700	23,800
	夫:年金201万	2割	—	106,700	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	— —	66,600 31,300	97,900
	夫:年金400万	—	—	262,800	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	— —	204,300 39,100	243,400
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	224,300	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	40,500 192,100	232,600
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	261,500	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	74,700 192,100	266,800
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	401,900	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	204,300 192,100	396,400

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成16年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
11	3方式	旧ただし書	7.30%	28000	25100	—	48.00%	35.00%	17.00%	—	7.14	40467	36919	10029

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				合計額(円)
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)		
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	15,900	7割	—	12,100		
	年金201万	2割	—	77,500	2割	—	66,600		
	年金400万	—	—	220,600	—	—	204,300		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	24,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100		24,200
	夫:年金201万	2割	—	99,900	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400		99,000
	夫:年金400万	—	—	248,600	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500		244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	24,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 12,200		24,300
	夫:年金201万	2割	—	99,900	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 32,400		99,000
	夫:年金400万	—	—	248,600	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 40,600		244,900
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	216,400	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 188,400		228,900
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	251,500	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 188,400		263,100
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	383,900	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 188,400		392,700

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

(廿日市)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
12	4方式	旧ただし書	5.60%	28,000	24,000	8,771	47	32	15	6	7.14	40467	30335	127161

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	24,400	7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	77,300	2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	189,300	—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	32,800	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	99,700	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	217,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	32,800	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 12,000	24,100
	夫:年金201万	2割	—	99,700	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 32,000	98,600
	夫:年金400万	—	—	217,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 40,000	244,300
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	199,100	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 162,300	202,800
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	226,000	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 162,300	237,000
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	327,600	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 162,300	366,600

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化した場合として計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化した場合として計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
13	4方式	旧ただし書	6.4%	22,800	20,100	13,193	42%	32%	16%	10%	7.14	40467	10040	0

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	26,100		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	78,200		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	203,000		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	32,900		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	
	夫:年金201万	2割	—	96,500		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	
	夫:年金400万	—	—	225,800		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	32,900		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 9,900	
	夫:年金201万	2割	—	96,500		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 26,300	
	夫:年金400万	—	—	225,800		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 32,900	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	195,800		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 159,800	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	226,500		長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 159,800	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	342,700		長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 159,800	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「6割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

(江田島)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保待会への法定外 一般計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
14	4方式	旧ただし書	6.70%	26000	23000	11173	44.90%	30.80%	16.00%	8.30%	7.14	40467	10692	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	25,900	7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	82,500	2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	213,900	—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	33,700	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	103,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	240,000	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	33,700	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 11,300	23,400
	夫:年金201万	2割	—	103,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 30,000	96,600
	夫:年金400万	—	—	240,000	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 37,500	241,800
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	210,700	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 173,500	214,000
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	242,800	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 173,500	248,200
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	364,400	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 173,500	377,800

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保待会への法定外一般計繰入」については、平成18年度の法定外一般計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

(府中町)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
15	4方式	旧ただし書	6.50%	30000	28000	11933	47.00%	30.30%	16.20%	6.50%	7.14	40467	12104	24761

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				合計額(円)
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)		
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	29,300	7割	—	12,100		
	年金201万	2割	—	89,500	2割	—	66,600		
	年金400万	—	—	219,100	—	—	204,300		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	38,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200	
		2割	—	113,500	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000	
	夫:年金201万	—	—	249,100	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800	
		7割	—	38,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 13,200	25,300	
	夫:年金201万	2割	—	113,500	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 35,200	101,800	
		夫:年金400万	—	—	249,100	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 44,000	248,300
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	225,500	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 183,600	224,100	
		—	—	256,700	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 183,600	258,300	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	374,700	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 183,600	387,900	
		—	—						
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—						
		—	—						

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しとして計算すること。

(海田)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
16	4方式	旧ただし書	6.4	28800	28800	14278	46.5	8.3	28.4	16.8	7.14	40467	6502	46798

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	31,600		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	91,100		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	218,800		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	40,200	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	— —	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	114,100	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	— —	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	247,600	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	— —	204,300 40,500	244,800
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	40,200	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	— —	12,100 13,000	25,100
	夫:年金201万	2割	—	114,100	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	— —	66,600 34,600	101,200
	夫:年金400万	—	—	247,600	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	— —	204,300 43,200	247,500
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	223,600	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	40,500 180,500	221,000
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	254,300	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	74,700 180,500	255,200
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	370,400	長寿保険料 国保保険料	— —	— —	204,300 180,500	384,800

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特金への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万円以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

(熊野)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
17	4方式	旧ただし書	6.40%	28400	25700	28530	46.55%	30.57%	15.28%	7.61%	7.14	40467	6101	114112

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				合計額(円)
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)	軽減割合	独自減免	保険料(円)		
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	44,800	7割	—	12,100		
	年金201万	2割	—	102,500	2割	—	66,600		
	年金400万	—	—	229,500	—	—	204,300		
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	53,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200	
	夫:年金201万	2割	—	125,300	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000	
	夫:年金400万	—	—	257,900	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	53,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 12,400	24,500	
	夫:年金201万	2割	—	125,300	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 33,000	99,600	
	夫:年金400万	—	—	257,900	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 41,300	245,600	
同居世帯 (計3人:高齢者1人 (75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	233,500	長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 176,600	217,100	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	264,200	長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 176,600	251,300	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	380,400	長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 176,600	380,900	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

(坂)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
18	4方式	本文	13.00%	21000	22000	18240	48.00%	24.00%	15.00%	13.00%	7.14	40467	3837	1696

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	31,100		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	115,000		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	359,600		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	37,400		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	24,200
	夫:年金201万	2割	—	82,400		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	99,000
	夫:年金400万	—	—	331,200		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	244,800
	夫:年金79万	7割	—	37,400		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 9,600	21,700
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金201万	2割	—	82,400		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 25,600	92,200
	夫:年金400万	—	—	331,200		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 32,000	236,300
	夫:年金79万	7割	—	37,400		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 9,600	21,700
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	244,900		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 205,700	246,200
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	307,300		長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 205,700	280,400
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	543,300		長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 205,700	410,000
	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	244,900		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 205,700	246,200

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しとして計算すること。

(安芸太田)町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%, 円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
19	4方式	旧ただし書	7.50%	27,000	21,000	20,536	39%	34%	16%	11%	7.14%	40,467	3,152	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				合計額(円)
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	34,900		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	94,900		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	240,700		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	43,000	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	24,200
					妻の長寿保険料	7割	—	12,100	
	夫:年金201万	2割	—	116,500	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	99,000
					妻の長寿保険料	2割	—	32,400	
	夫:年金400万	—	—	267,700	夫の長寿保険料	—	—	204,300	244,800
					妻の長寿保険料	—	—	40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	43,000	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	23,400
					妻の国保保険料	7割	—	11,300	
	夫:年金201万	2割	—	116,500	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	96,600
					妻の国保保険料	2割	—	30,000	
	夫:年金400万	—	—	267,700	夫の長寿保険料	—	—	204,300	241,800
					妻の国保保険料	—	—	37,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	232,800	長寿保険料	—	—	40,500	225,700
					国保保険料	—	—	185,200	
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	268,800	長寿保険料	—	—	74,700	259,900
					国保保険料	—	—	185,200	
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	—	—	404,900	長寿保険料	—	—	204,300	389,500
					国保保険料	—	—	185,200	

備考

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特金への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
20	4方式	旧ただし書	6.65%	24000	25000	13917	39.00%	33.00%	20.00%	8.00%	7.14	40467	6662	0

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	28,600		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	85,000		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	215,500		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	35,800	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	24,200
					妻の長寿保険料	7割	—	12,100	
	夫:年金201万	2割	—	104,200	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	99,000
					妻の長寿保険料	2割	—	32,400	
	夫:年金400万	—	—	239,500	夫の長寿保険料	—	—	204,300	244,800
					妻の長寿保険料	—	—	40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	35,800	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	23,100
					妻の国保保険料	7割	—	11,000	
	夫:年金201万	2割	—	104,200	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	95,800
					妻の国保保険料	2割	—	29,200	
	夫:年金400万	—	—	239,500	夫の長寿保険料	—	—	204,300	240,800
					妻の国保保険料	—	—	36,500	
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	208,700	長寿保険料	—	—	40,500	211,300
					国保保険料	—	—	170,800	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	240,600	長寿保険料	—	—	74,700	245,500
					国保保険料	—	—	170,800	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	361,300	長寿保険料	—	—	204,300	375,100
					国保保険料	—	—	170,800	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特金への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

(大崎上島町)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(％、円)				基礎賦課総額における割合(％)				所得割率(％)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
21	4方式	旧ただし書	5.60%	23900	23000	18973	40.00%	35.00%	15.00%	10.00%	7.14	40467	3486	100

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	33,000		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	83,400		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	194,400		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	40,200		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割 7割	12,100 12,100	
	夫:年金201万	2割	—	102,500		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割 2割	66,600 32,400	
	夫:年金400万	—	—	218,300		夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	— —	204,300 40,500	
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	40,200		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割 7割	12,100 10,600	
	夫:年金201万	2割	—	102,500		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割 2割	66,600 28,300	
	夫:年金400万	—	—	218,300		夫の長寿保険料 妻の国保保険料	— —	204,300 35,400	
同居世帯 (計3人:高齢者1 人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦とも に75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	196,000		長寿保険料 国保保険料	— —	40,500 153,100	
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の 夫)	—	—	222,900		長寿保険料 国保保険料	— —	74,700 153,100	
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	324,500		長寿保険料 国保保険料	— —	204,300 153,100	

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、％表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割課課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、％表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

(世羅町)市・町 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)の保険料と国保保険料との比較

(様式1)

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
22	4方式	旧ただし書	7.00%	24000	18000	14462	38.80%	34.00%	15.10%	12.10%	7.14	40467	5799	0

世帯区分	収入区分	国保				長寿医療制度移行後			
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	27,100		7割	—	12,100	
	年金201万	2割	—	81,700		2割	—	66,600	
	年金400万	—	—	217,100		—	—	204,300	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	34,300	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	24,200
	妻:年金79万	7割	—	—	妻の長寿保険料	7割	—	12,100	—
	夫:年金201万	2割	—	100,900	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	99,000
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	妻:年金79万	2割	—	—	妻の長寿保険料	2割	—	32,400	—
	夫:年金201万	—	—	—	夫の長寿保険料	—	—	204,300	244,800
	妻:年金201万	—	—	241,100	妻の長寿保険料	—	—	40,500	—
夫婦世帯 (夫:75歳以上、妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	34,300	夫の長寿保険料	7割	—	12,100	22,000
	妻:年金79万	7割	—	—	妻の国保保険料	7割	—	9,900	—
	夫:年金201万	2割	—	100,900	夫の長寿保険料	2割	—	66,600	93,000
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	妻:年金201万	2割	—	—	妻の国保保険料	2割	—	26,400	—
	夫:年金400万	—	—	241,100	夫の長寿保険料	—	—	204,300	237,300
	妻:年金400万	—	—	—	妻の国保保険料	—	—	33,000	—
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	207,400	長寿保険料	—	—	40,500	209,400
	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	241,000	国保保険料	—	—	168,900	—
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	—	—	368,000	長寿保険料	—	—	74,700	243,600
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金201万(世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	—	国保保険料	—	—	168,900	—
	高齢者:年金400万(世帯主:高齢者)	—	—	—	長寿保険料	—	—	204,300	373,200
	高齢者:年金79万(世帯主:高齢者)	—	—	—	国保保険料	—	—	168,900	—

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割賦課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しなかったとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しなかったとして計算すること。

整理番号	国保料率等(19年度)										長寿医療料率(20年度)		その他	
	賦課方式	所得割算定方式	保険料計算における料率等(%,円)				基礎賦課総額における割合(%)				所得割率(%)	均等割額(円)	国保被保険者数 (19年度末、人)	国保特会への法定外 一般会計繰入 (平成18年度、千円)
			所得割率	均等割額	平等割額	資産割額	所得割率	均等割率	平等割率	資産割率				
23	4方式	旧ただし書	7.00%	20,000円	20,000円	12,470円	37	11	35	17	6.42	36,372	4338	18720

世帯区分	収入区分	国保			長寿医療制度移行後				
		軽減割合	独自減免	国保保険料(円)		軽減割合	独自減免	保険料(円)	合計額(円)
単身世帯 (75歳以上)	年金79万	7割	—	24,500		7割	—	10,900	
	年金201万	2割	—	78,100		2割	—	59,900	
	年金400万	—	—	213,100			—	183,700	
夫婦世帯 (夫婦ともに75歳以上)	夫:年金79万	7割	—	30,500	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	7割	—	10,900 10,900	21,800
	夫:年金201万	2割	—	94,100	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	2割	—	59,900 29,100	89,000
	夫:年金400万	—	—	233,100	夫の長寿保険料 妻の長寿保険料	—	—	183,700 36,400	220,100
夫婦世帯 (夫:75歳以上、 妻:75歳未満)	夫:年金79万	7割	—	30,500	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	7割	—	10,900 9,000	19,900
	夫:年金201万	2割	—	94,100	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	2割	—	59,900 24,000	83,900
	夫:年金400万	—	—	233,100	夫の長寿保険料 妻の国保保険料	—	—	183,700 30,000	213,700
同居世帯 (計3人:高齢者1人(75歳以上)、 子供夫婦(夫婦ともに75歳未満))	高齢者:年金79万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	195,400	長寿保険料 国保保険料	—	—	36,400 162,900	199,300
	高齢者:年金201万 (世帯主:子供夫婦の夫)	—	—	229,000	長寿保険料 国保保険料	—	—	67,200 162,900	230,100
	高齢者:年金400万 (世帯主:高齢者)	—	—	356,000	長寿保険料 国保保険料	—	—	183,700 162,900	346,600

備考	
----	--

(記入要領)

- (1)「国保料率等」については、19年度の保険料率等を記入すること。
- (2)「長寿医療料率」については、20年度の保険料率を記入すること。
- (3)「賦課方式」については、「4方式」、「3方式」、「2方式」の別について記入すること。
- (4)「所得割算定方式」については、「旧ただし書」、「本文」、「住民税」の別を記入すること。また、「住民税」の場合については、「市町村民税所得割額」、「市町村民税額」、「道府県民税額等」の別も記入すること。
- (5)「所得割率」については、%表示すること。
- (6)「資産割額」については、一世帯あたりの金額を記入すること。(計算方法については、資産割課総額÷総世帯数であるが、計算できない場合は18年度全国平均18,973円(世帯あたり)を使用すること)
- (7)「基礎賦課総額」における割合については、%表示すること。
- (8)「国保被保険者数」については、平成19年度末現在の被保険者数を記入すること。
- (9)「国保特会への法定外一般会計繰入」については、平成18年度の法定外一般会計繰入額を記載すること。
- (10)「軽減割合」については、「7割」、「5割」、「2割」、「6割」、「4割」の別について記入すること。また、軽減が適用されない場合は、「—」と記載すること。
- (11)「独自減免」については、独自減免が適用される場合は「○」と、適用されない場合は、「—」と記載すること。独自減免がある場合は「備考」欄にその内容及び要件を記載すること。
- (12)「国保保険料」については、19年度の料率等を使用し計算し、年額を記入すること。
- (13)「長寿保険料」については、年額を記入すること。
- (14)住民税方式を採用している市町村においては、単身世帯の場合、基礎控除(33万)のみを考慮すること。夫婦世帯・同居世帯の場合、基礎控除(33万)＋配偶者控除(38万)のみを考慮すること。
- (15)夫婦世帯については、妻の収入は基礎年金など153万以下とし、夫が資産全部を持ち、夫の収入が変化しただけとして計算すること。
- (16)同居世帯(計3人)については、子供夫婦の所得は夫の事業所得180万円のみとし、高齢者が資産全部を持ち、高齢者の収入が変化しただけとして計算すること。